

礼拝指針（改訂版）

序言

この指針の目的は、教会の礼拝を北米改革長老教会の基準にまとめられているように、聖書にしたがって指導することである。

第一章 礼拝の本質

1

神は人を、神の栄光をあらわし神を喜ぶために、ご自身のかたちに造った。教会の公的礼拝で、キリストによって贖われた神の民は、神がご自身をみ言葉で啓示されているように、三位一体の神、つまり父、子、聖霊なる神の栄光をあらわし、その神を喜ぶ。

2

礼拝の主な目的は三位一体の神に、とりわけイエス・キリストを通しての神の贖いの働きに栄光を帰すことである。しかし、さらにまた、神はその慈しみから、彼らの贖いのすべての祝福を経験するため、彼らの神への信頼を宣言するため、神の定められた恵みの手段を喜ぶため、互いに励ましあうため、イエス・キリストとの結合を祝うため、神のかたちへとますますつくりかえられるためにも、神に近づくことに神の民を招き、またそれを命じておられる。

3

教会の集団礼拝において三位一体の神は、恵みの契約の条項に準じてその民とお会いになる。礼拝において、教会は神の恵みの契約を覚え、またその主への献身を更新する。礼拝は神とそのあがなわれた民との間の親密な交わりを伴う。礼拝において神は、その民を礼拝に招くことによって彼らとの契約的対話をはじめられ、彼の偉大な創造と贖いのわざをその民に宣言され、その民に彼の約束の有効性を保証し、礼典の手段において彼の約束を確認される。神の主導に応じて神の民は、告白と嘆願と感謝の祈りをささげ、彼らの心のうちにある恵みとともに詩篇を歌い、読まれ説教される神のみ言葉を受け、神にささげものをなし、礼典を通して彼らの個人的、また共同体的献身を確認する。

4

礼拝は生ける聖なる神に近づくことを伴うので、神の民はその神との交わりのために備えをして公的礼拝に入るべきである。それに加えて、牧師や長老たち[治会長老]は公的礼拝にある会衆を、このような神聖なる儀式の喜び、威厳、厳粛さ、栄光にふさわしいように導くべきである。神の民のすべてが崇敬と畏敬をもって神のみ前に入るべきである。

5

イエス・キリストは恵みの契約の唯一の仲保者であり、神と人との間のただ一人の仲保者である。それゆえ神の民の礼拝は、ただキリストのみ名によって、キリストの大祭司としてのとりなしと奉仕への謙虚な信頼を通してささげられるときのみ神に受け入れられる。

6

私たちの預言者、祭司、王であられるイエス・キリストは、どのように神を満足のいく方法で礼拝するかをその民に示された。それゆえ、「まことの神を礼拝する正しい方法は、神ご自身によって制定され、またご自身が啓示したみ心によって制限されているので、人間の創造や工夫、またはサタンの示唆にしたがって、何か可視的な表現によって、または聖書に規定されていない何か他の方法で、神を礼拝すべきではない。」（ウエストミンスター信仰告白 21 章 1 項）[日本キリスト改革派教会大会出版委員会編集、新教出版社出版のウエストミンスター信仰基準から。]

7

ご自身の言葉の中に、神は特別に七日のうちの一、安息日とその民が公的な集団礼拝のために集まるために定められた。主の復活以来、週の初めの日、主の日がキリスト教の安息日として、教会の礼拝と通常の働きからの休息のための日として聖く守られるように取り分けられている。

8

公的礼拝の崇高な召命と特権を与えられているゆえに、神の民は、その心を備え、無関心や家族の活動やキリスト教の他の会合などの理由から欠席することなく、喜んですすんで礼拝に来るべきである。通常の場合では、個人礼拝や家庭礼拝は公的礼拝の適当な代用とはならない。予定された公的礼拝の奉仕に出席することに加えて、主の日は、個人的な聖書の朗読と学び、瞑想と祈り、説教についての話し合い、身体の休息を楽しむこと、慈善の働き、霊的な交わり、もてなし、子供たちへの指導と信仰問答による教え、病人の訪問などのような活動によっても豊かに守られることができる。

第二章 礼拝の実践

1

聖書は礼拝の固定された順序を規定してはいないが、むしろそれゆえにすべてのことは品位を保って、秩序正しく行われるべきであり（I コリント 14：40）、礼拝の行為は聖書的な、思慮深い、威厳のある、精神を高揚するやり方で行われることが望ましい。集められた会衆は神の契約の民として神の臨在のうちに集まる。彼らはその罪を告白し、神の赦しと受容の約束を聞き、そして神の言葉の義なる要求に聞く。その全体は神とその民との間の対話である。礼拝奉仕の順序と内容は、恵みの契約を基礎として起こるこの対話を反映するべきである。下記の礼拝の順序が、変更は可能ではあるが、勧められている。

礼拝への招き、挨拶
崇拝の祈り
詩篇
 洗礼（もしあれば）
旧約聖書の朗読
詩篇、または告白の祈り
新約聖書の朗読
とりなしの祈り
説教箇所の朗読
説教
祈り
十分の一献金と捧げもの
 主の晩餐（もしあれば）
 制定の言葉
 警告と招き
 主の晩餐の祝い
詩篇
祝祷

2

聖書的な通常の公的礼拝の要素は、祈り、詩篇の賛美、神の言葉を読むこと、説教すること、聞くこと、十分の一献金と捧げものの贈呈、礼典の執行である。これらに、断食、感謝の祈り、誓約、公的な契約などの特別な儀式を加えられうる。礼拝奉仕のそれぞれの部分は、その目的が出席しているすべての人に明確になるように、それぞれの部分の合間に現代の言葉で、簡潔に説明されるべ

きである。報告は、神の礼拝に入り込むことがないように、礼拝奉仕の前かあとになされ、そして最小限にされるべきである。

3

各個小会は公的礼拝の直接的な監督について責任を持つ。通常は、牧師が礼拝奉仕の計画をすること、導くことの指導的役割を果たす。治会長老たちは、会衆を礼拝に招き、挨拶をし、会衆の祈りを導き、歌われる詩篇を紹介し、み言葉を読むことができる。場合によっては、治会長老はみ言葉を説教し、祝祷をすることができるが、臨時的な状況のもと以外で礼典を執行することはできない。

(教会政治指針3 : I : C : 4 - 6)

場合によっては、監督下の神学生は礼拝奉仕の部分を導くことができる。

<礼拝への招き、挨拶、崇拝の祈り>

4

長老は、神の聖名の威厳、または神の完全さへの賛美、または神の創造と贖いのわざのすばらしさを宣言する箇所などのような、ふさわしいみ言葉の本文を用いて、会衆を礼拝に招くべきである。彼はまた、あるいは「私たちの父なる神と主イエス・キリストより恵みと平安があるように」などのような使徒の挨拶を用いて、神の民に挨拶をするべきである。

5

次にその長老は崇拝の祈りをささげるべきである。これは下記のようなものを含む。

- (a) その臨在の前に会衆が集められる方である主の、理解しきることのできない偉大さ、すばらしさ、威厳の、敬虔な認識。
- (b) 私たちの、神に近づくことの生まれつきふさわしくないことと、私たちの、神を礼拝することの無力さの、厳粛な告白。
- (c) 礼拝での神の許し、助け、受容を謙遜に求めること。
- (d) ただひとりの罪びとたちの救い主あり、ただひとりの神と人との仲保者である、神の子イエスの言葉にできない賜物のゆえの感謝に満ちた賛美。
- (e) 神の恵みの契約の聖徒たちへの約束の、喜びに満ちた声明。
- (f) その日の賛美と祈りとみ言葉の宣言を期待して求めること。

6

会衆全体は、全員が出席し、礼拝奉仕全体に参加できるように、時間通りに集まるべきである。礼拝が始まるに伴い、それぞれが神の礼拝へ全神経の集中を注ぐべきである。礼拝者たちは、主への彼らの忠実な奉仕に混乱や妨害をもたらすどんな行いをも慎むべきである。必要でない限り、祝祷のあとになるまで誰も出て行くべきでない。

<賛美>

7

新しい契約は神とその民の間の結婚の絆のようなものである。それぞれの週の神の民の集会は喜びと楽しみを正当にもたらす。それゆえ聖徒は神へ詩篇を歌う。

8

心からの賛美は公的礼拝の一要素である。積極的な聖書的根拠とその固有の卓越さ、そしてその神の靈感のゆえに、聖書の詩篇は、すべての人の創作による歌や賛美歌を除外して、神の公的礼拝において歌われるべきである。楽器は新約聖書の礼拝に正当であると認められていないので、詩篇は楽器の伴奏なしで歌われるべきである。統一のため、神への賛美のなかで用いられる詩篇の翻訳は、通常は、北米改革長老教会の大会の承認を得たものであるべきである。詩篇、または詩篇の一部は、礼拝の個々の奉仕のなかで、その内容のふさわしさに応じて選ばれるべきである。もし詩篇の一部のみが歌われるならば、その大きな文脈によく注意が払われるべきである。会衆は特定の好みの詩篇ばかりを歌う習慣に陥るべきではなく、小会は、組織的に詩篇の書を歌いとおすための計画をよく考えるべきである。

神の民は、心のうちにある恵みと共に、思慮深く、敬虔に、熱心に歌うべきである。賛美が神の栄光と聖さを反映して美しく響くように、曲と先唱者[precentor]の先導によく注意が払われるべきである。先唱者に選ばれた者達はキリスト者としての成熟のしるしとこの働きを行うための賜物を持っているべきである。彼らは賛美を、わかりやすい、秩序だった、品位のある方法で導くべきである。彼らは歌われる詩篇の内容について、解釈や評言をさしはさむべきではない。宗教改革の成果の一つは、聖書的な会衆賛美の習慣の回復であった。賛美を導くことを助けるために聖歌隊がつくられてもよいが、賛美が聖歌隊に任されてはならない。会衆賛美がいつも標準であるべきである。

10

詩篇は、最も注意深い学びに値する意味の深さと美しさを持っている。会衆が何を歌っているか理解することはきわめて重要である。それゆえ、長老が簡潔な解説を加えることは有益である。詩篇の一つが、それが歌われる前に一人の長老によるさらに十分で核心を衝いた説明のために、選ばれるなら特に有益である。詩篇が、どのようにキリストの働きと、新しい契約の祝福を明らかにしているかに注意が払われるべきである。

<祈り>

11

祈りは、聖徒たちが恵みのみ座に近づくところの、公的礼拝の一要素である。思いと言葉と態度における最高の崇敬とともに、聖なる神のみ前に近づく赦された罪人たちにふさわしいへりくだりとともに、そして、愛情に満ちた父によって受け入れられる子供たちの喜びとともに、祈りはイエス・キリストのみ名によって大胆にささげられるべきである。一人の長老によって導かれてではあるが、主の民が、祈りの内容に真剣な注意を払うことと、聞こえるように、または聞こえないように「アーメン」と言うことによるその嘆願への彼らの熱心な同意を加えることにより、参加するときに、その祈りは全集会の祈りとなる。

12

礼拝奉仕のなかでの祈りは、崇拜、感謝、罪の告白、とりなしを含む。罪の告白に焦点を当てた、このとりなしの祈りの部分は、神の律法の朗読に引き続いて、また、赦しの保証の宣言に伴われて、別々にささげられることもできる。

13

とりなしの祈りは、過度に長くならず、包括的であるべきである。この祈りは注意深く計画されるべきである。この祈りは以下のものを含むことができる。

- (a) 命と、すべての良い完全な賜物と、そして何よりもまず、神の子、主イエス・キリスト、罪人たちの救い主の賜物とを与えられる方である神の威厳の崇拜。
- (b) 原罪（生まれつきの人間の状態）と現行罪（神の命令に対する実際の違反）と、神が罪人たちに有罪を宣告される正当性と、また、神の最も小さな祝福に私たちは預かることに値しないこととのゆえの、私たちの非常な罪深さの告白。
- (c) 罪のための贖いの犠牲としてその命をささげられた仲保者としての主イエス・キリストを与えてくださったことと、神がその民を捜し求められ、救われ、また、福音により、すべての人々がどこでも、永遠の命を持つように、悔い改め、彼を信じるように招かれ続けているところの神の主権とに対する感謝。
- (d) み霊の働きを懇願すること。私たちの心に神の愛を注ぎ、子としてくださるみ霊により赦しと和解の完全な保証を動かさないものにし、嘆き悲しむものを慰め、傷つき悩める霊に平安を語り、失意にあるものを包み込んでくださるように。罪人を回心させ、その目を開き、その良心に悟らせ、彼らもまた罪の許しと、キリスト・イエスへの信仰により聖化された者たちの間での相続を受けるために闇から光、サタンから神に彼らを立ち返らせてくださるように。私たちの中に残る罪を死に至らせ、キリストにある神からの命によって私たちの魂を活気づけ、神のみ前と世界における私たちの生活と証のために私たちを備える恵み、

誘惑に対する力、祝福と試練の敬虔な使用、私たちの人生の終わりまで信仰の堅忍を与えることによって、私たちを聖化してくださるよう。

- (e) とりなし。世界のすべての国々への福音とキリストの王国の発展のため。ユダヤ人と異邦人の回心と私たちの主の再臨を早めることのため。自国、他国での教会の繁栄のため。迫害されている信仰者たちの苦痛からの解放のため、政府が主への恐れのうち正義をもって治めるため。
- (f) 聖徒たちと教会共同体のための具体的な祈り。病人や苦しむ人のため。来る週の課題のため。交わりの成長と未信者への伝道のため。
- (g) 主の日のゆえに、また礼拝に集まることの喜びと特権のゆえに主をほめたたえること。私たちのすべての思いがキリストに従うようにとりにされ、私たちの心がすべてのよい言葉と行いのうちに永遠に立て上げられるために、キリストが私たちのうちに形作られ、私たちのうちに住まれるように、み言葉の説教における聖霊の働きと力を願うこと。

1 4

説教のあとの祈りは、その聖徒たちへの神の恵み深さのゆえに神に感謝をささげ、神が出席したすべての人々の心に真理を印象付け、ささげられた礼拝を恵み深く受け入れてくださるよう求める。

1 5

聖書は、祈りにおける特定の姿勢をはっきりとは命じていない。聖書は、崇敬と献身をふさわしく示す姿勢として、ひざまづくことや起立することの例を与えている。

1 6

会衆は主の祈りをいっせいに祈ることができる。それは祈りの模範であるというだけでなく、もっとも包括的な祈りである。

<聖書の朗読>

1 7

神の言葉の朗読は礼拝の一要素であり、神の民を建てあげるために神によって定められた、主要な手段のひとつである。これにおいて私たちは、主への私たちの依存と、彼への私たちの服従とを認める。朗読は、神の僕である長老によって導かれなくてはならない。これにより神は、会衆に直接語りかけられる。

1 8

礼拝における聖書の朗読は神がその民をご自身に導かれた歴史を物語ることを伴う。旧約聖書における律法の授与は、神がイスラエルを救ったことを物語ることから始まる。「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。」（出エジプト 20 : 1）同じように、新約聖書においても、キリストにおける神の救う行為は福音において宣言される。キリストにおいて神はその民の敵、つまり罪の力、サタン、そして最後の敵である死そのものを征服される。（コロサイ 1 : 13 - 14）

1 9

旧新両約聖書のすべての正典（一般に外典と呼ばれる書簡なし）は、すべての人が聞き、また理解できるように、その人々の言語で、堅実な翻訳から、はっきりと、公けに読まれるべきである。また聖書は、交互または一斉に読まれてもよい。

2 0

読まれる箇所（の）の長さは長老の知恵にゆだねられる。礼拝奉仕において、旧約聖書、新約聖書の両方から一箇所ずつ読むことは薦められている。これは、時間の経過の中で聖書全体が読まれるように、連続的方法でなされることができる。律法や、赦しと受容の聖書にある約束など、ある箇所はさらに頻りに読まれてもよい。読まれる箇所の一つは説教箇所にすることもできる。

<神の言葉の説教>

2 1

救いにいたらせる神の力である福音の説教は、牧会奉仕の働きの中心である。その働き人が恥じる必要がないように、むしろ働き人自身と彼に聞く人々を救うように、それはなされるべきである。

(I テモテ 4 : 16)

み言葉に仕える者は、祈りと注意深いみ言葉の学びにより、説教のための準備をしなくてはならない。彼は神のご計画の全体を宣告するために、聖霊の助けを求めべきである。彼は広範囲にわたって読み、学問に、そして時の社会的、教理的問題に精通しているべきである。彼の教えは、その内容と話し方両方において会衆に適合させられるべきである。

2 2

説教は聖書の解説と適用である。一つの書、またはある書の部分の継続的な解説は、一つの非常に優れた説教の方法である。しかし、文化の問題、会衆の必要に取り組むために、題目説教もまた適切である。説教者は、贖いの歴史の文脈のなかで、また、神の救いの計画を明らかにするなかで、聖書を解釈するべきである。忠実な説教は、書かれた神の言葉、聖書の明確な教えを宣言し、受肉した神の言葉、キリストを宣言する。

2 3 キリストの僕はこのように説教すべきである。

- (a) 勤勉に。主の働きを怠惰にするのではなく。
- (b) わかりやすく。すべての世代、能力の人が理解できるように。人の知恵による気を引くような言葉によってではなく、キリストの十字架がむなしくならないために、み霊とみ力の表れによって、真理を伝えること。(I コリント 2 : 4、1 : 17)
- (a) また、知られていない言葉、変わった言い回し、声や言葉の抑揚の無駄な使用を避けること。教会または他の著述家、古代または現代からの引用を、控えめに、また品位を保つこと。
- (b) 忠実に。キリストの名誉のため、回心、教化、人々の救いのために、そして彼自身の利得や栄誉のためでなく。これらの目的を促進するようなことを妨げないこと、それぞれの人に必要なことを与えること、最も低い人を軽視したり最も影響のある人々をその罪において見逃したりすることなく、すべての人に公平な尊敬を払うこと。
- (c) 賢明に。有効であると最も思われる方法で、彼のすべての教え、励まし、そして特に彼の戒めを工夫すること。それぞれの人の人格と地位に払われるべき尊敬をすべて示し、彼個人の敵意や偏見に譲歩しないこと。
- (d) 厳粛に。神の言葉にふさわしいように。彼と彼の牧会奉仕を軽蔑する機会を与えかねない、どのような身振り、声の抑揚、表現も避けること。
- (e) 愛を持って。聖徒たちが、彼の牧会奉仕が見せかけでない主への熱心と、彼らに益したいという深い願いから発していることがわかるように。
- (f) 神によって教えられ、心から説得された者として。彼が教えることすべてがキリストの真理であるように。会衆の模範として彼らの前で生きること。真剣に、公においても個人的にも、神の祝福に彼の働きを推薦し、彼自身と、主が彼を監督者とされた群れを、用心深く見ること。

このようにして、真理が忠実に保たれ、多くの人々がキリストへと回心させられ、キリスト者の信仰と生活のうちに建てあげられ、そして彼自身、この人生における彼の牧会奉仕において多くの励ましを、後には来る世界において栄光の冠を受ける。

2 4

礼拝者は、「勤勉、準備、祈禱をもってこれに傾聴し、信仰と愛を持って受け入れ、彼らの心のうちに蓄え、彼らの生活の中で実践」(ウェストミンスター小教理問答書第 90 問)することによって、み言葉の説教に参加する。

<捧げもの>

2 5

十分の一献金と捧げものの贈呈は礼拝の一部として認められている。私たちは、週の初めの日に私たちの捧げものを取っておくことが命じられている。(I コリント 16 : 1 - 2)

神は神の民を、進んで、組織的に、神が彼らを富ませてくださるのに従って、彼らの財産の一部を神に返すように召される。捧げものの受容は、神の供給に喜んで感謝し、キリストの王国の働きと主の祝福に贈り物を委ねる短い祈りによって先行されるか、または、あとに続かれる。

< 祝祷 >

26

公的礼拝は聖徒たちへの厳粛な祝福と共に終えられるべきである。これらは二つの一般的な形式である。「主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。アーメン。」(II コリント 13 : 14)

「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」(民数記 6 : 24 - 26)

聖書は他にもふさわしい祝祷を提供している。(たとえば、II テサロニケ 3 : 16、エペソ 6 : 23 - 24、ヘブル 13 : 20 - 21)

27

祝祷は、散会の祈りではなく宣言であり、会衆を解散させるただの形式に決してなるべきではない。父、子、聖霊なる神の祝福の授与は、崇高な、そして、聖なる特権である。会衆は、祝祷を受けるために、静かに、また、敬虔に待つべきである。

28

主は、七日のうちの一、主の日を覚え、喜ぶように命じられた。私たちは、私たちの通常の働きやすべての必要でない働きを休むことによって、神の創造と贖いの働きを覚えることによって、キリストにある私たちの永遠の休息を期待することによって、また、必要のある者に慈しみを示すことによって、丸一日をきよく守る。

29

小会は、その日を守ることにどのように教会を導くか、注意深く考慮すべきである。それぞれの会衆の状況は異なるので、小会は、いつも神の栄光と会衆の益とを考えて、二つめの会合が持たれるべきかどうか、それは公的礼拝であるべきか、それとも何か他の、交わりと教化のための集まりであるべきか、注意深く考慮すべきである。

第三章 聖礼典の執行

1

聖礼典は、キリストによって制定された聖なる儀式であり、その象徴物と行為はキリストと、恵みの契約の特典を示す。聖礼典は、ただキリストの祝福と、信仰によってそれらにあずかる者たちの中におられる聖霊の働きによってのみ、恵みの手段、また、契約の特典の証印となる。

2

キリストによって定められた新しい契約の聖礼典は、洗礼と主の晩餐の二つである。それらは、キリストの任命にしたがい、牧師によって、または中会によって特別な状況に対応するために権限を与えられた治会長老によって執行される。

それらは、普通は、長老たちの招集によって会衆が礼拝のために集合したときに執行される。公的礼拝に出席することができない場合、聖礼典は通常の礼拝奉仕から別れて執行されることができ、このような場合には、牧師に加え、彼以外の教会員によって会衆は代表されなくてはならず、そして、短い礼拝奉仕がなされるべきである。

< 洗礼 >

3

洗礼は見える教会への参加を示し、キリストとの結合、彼にある人生の新しさ、そして彼の血による罪からの清めの、礼典的しるしと証印である。これは繰り返されない。洗礼の要素は、聖礼典に用いるために祈りによって聖別された水であり、これはふりまくこと、注ぐことによって用いられる。浸すことも、洗礼の方式として必須ではないが、有効である。

4

小会の監督の下に、洗礼は、キリストへの信仰の、信頼できる告白をした者たちと、彼らの子供たちに、執行される。大人たちの洗礼には、彼らの公の信仰告白と、陪餐会員の契約[教会員の契約]への同意が伴わなければならない。契約の子供が生まれた時には、小会は、都合のつく限り早く幼児洗礼の準備をするように両親を励ますべきである。長老たちは、彼ら自身のキリスト者としての歩みについてその両親と話し合うため、また主の教育と訓戒によって子供たちを育てることを励ますために、この機会を用いるべきである。

5

洗礼において、牧師は、違う言葉を用いてもよいが、下記の様式におおむね従うべきである。

<成人の洗礼>

6

洗礼が執行される前に、聖礼典の制定、性質、目的についての教えがなされるべきである。

洗礼の制定には、マタイ28：18 - 20が読まれるべきである。（エゼキエル36：25 - 27など、その他のふさわしい聖句が読まれてもよい。）

次の（または似たような）教えがなされるべきである。

「洗礼は、私たちの主イエス・キリストによって定められた礼典です。それは、洗礼を授けられる人の、恵みの契約に入れられることとしるしであり、証印です。水の洗礼は、私たちと私たちの子供たちとは罪のうちに身ごもられ、生まれたことを教えています。それは、私たちが罪の中に死んでいることと、キリストの死と復活における私たちのキリストとの結合のゆえの、人生の新しさへの私たちのよみがえりを示しています。それはまた、キリストの血とみ霊による罪からの清めを私たちに示し、また証印を押します。これらの救いの賜物は、私たちを彼ご自身のもものと喜んで主張される三位一体の神の恵み深い規定であるので、私たちは父と子と聖霊のみ名において洗礼を受けます。洗礼を受けた人々は、契約の義務を身につけることを命じられます。洗礼はこの世と罪とを放棄し、神の戒めへの献身のうちに神と共に謙遜に歩むように私たちを奮い立たせます。」

会衆は、彼らの契約の神に対する彼らの罪を悔い改め、彼らの信仰をかきたて、そのようにして彼らの洗礼の正しい使用を改善し、実行するために、彼ら自身の洗礼を思い返すように励まされるべきである。

教えのあとに、洗礼を受ける者は、会衆の前に進み出る。長老たちに前に来るように求めることもできる。

洗礼を受ける者は、陪餐会員の契約[教会員の契約]に同意する。もし小会がふさわしいと考えるならば、小会は、彼（または彼女）の信仰やキリストとの関係の個人的な証をするように求めることもできる。

牧師は会衆に、立って次の問いに答えるように求めるべきである。「会衆の会員であるあなたがたは、あなたがたの交わりの中にこの人を受け入れ、彼（または彼女）のために祈り、キリスト者の生活にある彼（または彼女）を助け励ましますか。」

牧師は祈りによって導き、神の恵みに感謝を捧げ、この洗礼の儀式の上に神の祝福を求め、王であり、教会のかしらである主イエス・キリストのみ名において、水を通常の用途から聖礼典に用いるために聖別する。

そして、牧師は、その人の名前を呼び、また、「父と子と聖霊のみ名において、私はあなたに洗礼を授けます。唯一の神は永遠にほむべきかな。アーメン。」と言いつつ、洗礼を授ける。

牧師（または他の長老）は、洗礼において示され、証印が押された恵みがこの人の人生の中で豊かに実現し、また、日々罪に死に、キリストにある人生の新鮮さに歩むことによって、神が恵み深く、彼、または彼女を、契約を守る者とさせてくださるよう、祈りをもって終えるべきである。

<契約の子供の洗礼>

7

契約の子供が洗礼を授けられるときに、聖礼典の制定、性質、目的について教えがなされるべきである。

洗礼の制定にはマタイ 28 : 18 - 20 が読まれるべきである。（イザヤ 44 : 1 - 5 やエゼキエル 36 : 25 - 27 など、その他のふさわしい聖句が読まれてもよい。）

次の（または似たような）教えがなされるべきである。

「洗礼は、私たちの主イエス・キリストによって定められた礼典です。それは、洗礼を授けられる人の、恵みの契約に入れられることによるしるしであり、証印です。水の洗礼は、私たちが私達の子供たちとは罪のうちに身ごもられ、生まれたことを教えています。それは、私たちが罪の中に死んでいることと、キリストの死と復活における私たちのキリストとの結合のゆえの、人生の新鮮さへの私たちのよみがえりを示しています。それはまた、キリストの血とみ霊による罪からの清めを私たちに示し、また証印を押します。これらの救いの賜物は、私たちが彼ご自身のもので喜んで主張される三位一体の神の恵み深い規定であるから、私たちは父と子と聖霊のみ名において洗礼を受けます。洗礼を受けた人々は、契約の義務を身につけることを命じられます。洗礼はこの世と罪とを放棄し、神の戒めへの献身のうちに神と共に謙遜に歩むように私達を奮い立たせます。」

牧師は、（上になされたものに加えて、）幼児洗礼の根拠について、さらに教えを与える。

「私たちの若い子供たちはまだこれらのことを理解しませんが、それにもかかわらず、彼らは洗礼を授けられるべきです。なぜなら、神がアブラハムに『わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。』（創世記 17 : 7）と宣言されたように、契約の約束は、信者とその子供たちにたいしてなされるからです。新約の下では、旧約においてと同様に、信者たちの子供たちは、彼らの出生のゆえに、契約のうちにある利益とその証印の権利を持ちます。恵みの契約は、旧約と新約において、本質において同じであり、その契約の証印として、洗礼は割礼に取って代わりました。（コロサイ 2 : 11 - 12）

私たちの救い主は小さな子供たちを彼のみ前に来ることを許され、彼らを抱き祝福し、そして『神の国は、このような者たちのものです。』（マルコ 10 : 14）と言われました。洗礼のうちに示されている恵みは、執行の瞬間に縛られません。聖書は、私達の子供たちの洗礼以前に、彼らが契約的に聖い、と教えています。（I コリント 7 : 14）

洗礼は、私達の子供たちに契約の約束と義務を適用し、彼らが理解できる年齢に達したときに彼らを個人的な悔い改めと信仰に招きます。」

会衆は、彼ら自身の洗礼を思い返すように、また、彼らの契約の神に対する彼らの罪を悔い改め、彼らの信仰をかきたて、そのようにして彼らの洗礼を改善し、正しく使用するよう、励まされるべきである。

教えのあと、両親は会衆の前に子供を連れてくる。もし、片方の信者である親が改革長老教会の教会員でなければ、彼（または彼女）は、他方の親と共に前に来て、彼（または彼女）の良心の許す限りで洗礼の契約に同意することができる。未信者の親は、信者の親が子供を前につれてくるときに付き添うことはできるが、契約に同意することを求められるべきではない。また、長老たちも前に来るように求められてもよい。

牧師は、次の質問に答えるように両親に求める。

「あなたたちは、キリストへの信仰の告白を公に新たにし、陪餐会員の契約[教会員の契約]をあなたが受け入れていることを承認しますか。」

両親は、彼らの子供に関する洗礼の契約に同意する。

牧師は、会衆に、立って次の質問に答えるように求める。

「あなたがた、会衆の会員は、あなたがたの交わりの中にこの子供を受け入れ、彼（または彼女）のために祈ること、また、主の教育と訓戒のうちに彼（または彼女）を育てることを求めるように両親を助け励ますことを約束しますか。」

牧師は祈りによって導き、神の恵みに感謝を捧げ、この洗礼の儀式の上に神の祝福を求め、王であり、教会のかしらである主イエス・キリストのみ名において、水を通常の用途から聖礼典に用いるために聖別する。

そして、牧師は、その人の名前を呼びつつ、また、こう言いつつ、洗礼を授ける。

「父と子と聖霊のみ名において、私はあなたに洗礼を授けます。唯一の神は永遠にほむべきかな。アーメン。」

牧師、または他の長老は、洗礼において示され、証印が押された恵みがこの人の人生の中で豊かに実現し、また、日々罪に死に、キリストにある人生の新しさに歩むことによって、神が恵み深く、彼、または彼女を、契約を守る者とさせてくださるよう、祈りをもって終えるべきである。

8

正確な記録が、年月日とともに、また、幼児洗礼の場合は両親の名前と誕生日とともに、全受洗者の小会議事録に記されるべきである。洗礼証明書が、洗礼を受けたそれぞれの人に授与されるべきである。

<主の晩餐>

9

主の晩餐、または聖餐式は、キリストの死にある犠牲の永久の記念として、彼が再び来るまでの間、彼によって教会に与えられた。これは、真の信者にキリストの死の恩恵を示し、証印し、また、彼らの魂がキリストのうちに成長するように養う。これはまた、忠実な弟子訓練への彼らの献身の、そして、キリストとの、また、キリストの体である教会の会員同士の、交わりの契約と誓いである。

10

主の晩餐は、小会が決める頻度で、定期的に行われるべきである。要素はキリストの体と血を象徴するパンとぶどう汁であり、牧師によって行われる礼典的行為はキリストの受肉、彼の救いの働きへの彼自身の聖別、十字架上で彼の苦しみと死、救い主としての彼自身の提供を示す。陪餐者の

行為は、彼らがキリストを受容することと、彼らの靈的滋養と恵みにある成長のために、彼らが命のパンであるキリストを食することとを示す。

1 1

洗礼を受けた者、また、キリストの見える教会の真実な枝においてよい評判を保っている陪餐会員が主の晩餐にあずかることができる。彼らのキリスト者としての告白と生活態度が著しく一貫しない者たち、または、食卓の責任を負う小会に知られていない者たちは、聖餐に招かれることができない。改革長老教会の会員でない者で、聖餐にあずかりたいと願う者は、彼らの個人的な信仰とキリストへの献身と、彼らの教会員であることと、彼らの洗礼について長老によって試問されなければならない。教会の小会監督聖餐の実践は、来訪者にはっきりと説明されるべきであり、できれば、人々が礼拝奉仕に入るときに配られる注意深く表現された声明文を用いて、それはなされるべきである。

1 2

慎重な備えと共に、定期的に主の晩餐にあずかることはすべての教会員の特権であり義務である。小会は、人々の備えを助けるために一回かそれ以上の準備礼拝を定めることができる。このような聖餐式の時期は、他の会衆からの牧師にとってみ言葉の説教をするために招かれるのにふさわしい機会である。陪餐会員の契約[教会員の契約]が、その準備礼拝のうちの一つで読まれ、説明されてもよい。

1 3

主の晩餐の儀式において、牧師は福音書、またはIコリント11から聖礼典の聖書的根拠を読み上げるべきである。彼は、他の言葉を用いてもよいが、下記の様式におおむね従うべきである。

1 4

牧師は、Iコリント11：23 - 26にある制定の言葉に注意を引きながら、主の晩餐の制定、性質、目的についての教えを与える。

「主の晩餐は、私たちの主、イエス・キリストによって制定された儀式です。それは、キリストが十字架上でお捧げになった彼ご自身のいけにえを覚えて、彼がもう一度来られるまで守られるべきものです。パンとぶどう汁の物質的要素は、救い主の体と血を表し、彼のいけにえのすべての恩恵のしるしと証印として真の信者たちによって受け取られます。聖餐は、罪の赦しを示し、証印し、キリストにあつて成長するように私たちのたましいを養い、また、キリストとの、そして、キリストの体である教会の会員同士の、結合と交わりの契約と誓いです。それは、神が真実な方で恵みの契約の約束を成就されたということを私たちに確証し、彼の救いへの感謝のうちに主に従い、仕えることの献身を新たにするように私たちを招きます。キリストご自身が、信仰によって聖餐を受ける者たちにとってそれを真実に恵みの手段とするために、聖餐に彼の御霊によって臨在されます。聖餐にあずかる者たちは、彼らのためにキリストの体が与えられ、彼の血が流されたという感謝の記憶のうちに聖餐にあずかります。彼らは、彼らが子羊の婚礼の祝宴に加わるその日の、彼らの贖いの完成を予期しつつ、希望のうちに喜びます。」

1 5

そして、牧師は、Iコリント11：27 - にある警告と招きの言葉に注意を引きながら、誰が主の晩餐にあずかることができるか、誰が差し控えるべきかを言明する。

「もしあなたがあなたの救いとして主イエス・キリストを信じていないなら、あるいは、もしあなたが不敬虔で不従順な生活を送り、そして今なお悔い改めていないのなら、あなたがあなた自身への責めを飲み食いすることがないように、あなたは主の晩餐にあずかるべきでないと警告することは教会の義務です。主の晩餐は、自分自身を吟味し、兄弟たちとの和解を探し求めつつ、キリストが救い主であると告白して来る、悔い改めた、信じる罪人たちのためのものです。」

「この警告は、へりくだった者、悔いる者を主の晩餐から遠ざけることが意図されたものではありません。その反対に、聖餐は、この人生の荒野を通り抜ける旅にある弱い巡礼者たち

を支えるために提供された恵みの手段です。キリストの体と血の象徴にあずかるために来る私たちは、その唯一の望みが、キリストにある神の恵みである罪人として来ます。私たちは、キリストの恵みに感謝を捧げ、彼の功績に信頼し、信仰によって彼を食し、彼と彼の民との契約を更新するときに、私たちが、救い主を必要とする、私たち自身においてはふさわしくない罪人であることを認めるように、私たちの罪のために与えられたキリストの体をわきまえているように、キリストに飢え渴いているように、ふさわしい態度で来ます。」

「もしあなたがこのように来るように整えられているのならば、主の恵み深い招きの言葉を聞きなさい。」（ここで、イザヤ55：1-3、マタイ11：28-30、黙示録22：17のような、み言葉からの招きが読まれるべきである。）

16

適切な詩篇が歌われている間に、長老たちは会衆の前に進み出てもよい。聖餐にあずかる者は、前に移動するように、または、食卓に着くように招かれてもよい。要素の分配は、小会によって決められたことにしたがってさまざまな仕方で行われる。

17

牧師は、下記のような言葉を用いつつ、パンと杯を取り上げ、それらを陪餐者たちに示す。

「主イエスは、渡される夜、パンと杯をお取りになりました。主の例にならい、また主のみ名において執行するために、このパンとこの杯を取り、主の体と血の礼典的象徴としてあなたがたに示します。」

要素を戻しながら、彼はこう言う。

「主イエスは、パンと杯を取った後に、それらを祝福なさいました。感謝をささげ、これらの要素を聖別するために祈りましょう。」

この祈りのうちに、牧師は、救いをもたらした神の恵みのゆえに神をほめたたえ、神の恵みとキリストの義と彼の仲介への神の民の信頼を再び確言し、聖礼典をとおしての彼の御霊の恵み深い、有効な働きを与えてくださるよう嘆願するべきである。そして、要素は、これらの言葉、または似たような言葉を用いて聖別される。

「この儀式に用いるように、私たちが、今ここに、王であり、教会のかしらである主イエス・キリストのみ名と権威により、私たちが通常の用途より礼典的用途へと聖別する、これらの要素を祝福してください。」

牧師はパン（またはその部分）を取り、こう言いながらそれを裂く。

「主イエスは、パンを祝福した後、それを裂かれました。主の例にならい、また、主のみ名において執行するために、このパンを裂き、（ここでパンが裂かれる）

『取って、食べなさい。これは、あなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えるため、このようにしなさい。』と主が言われた言葉とともに、主の弟子たちであるあなたがたに、これを与えます。」

そこで、パンは、それを受け、それにあずかる、長老たちを含める陪餐者に配られる。配られている間に、いくつかのふさわしい聖句が読まれるか、詩篇が歌われてもよい。

次に牧師は杯を取り、こう言いながら会衆にそれを差し出す。

「夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えるため、このようにしなさい。』ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」

そこで、杯は、それを受け、それにあずかる、長老たちを含める陪餐者に配られる。配られている間に、いくつかのふさわしい聖句が読まれるか、詩篇が歌われてもよい。

すべての人が聖餐にあずかった後に、短い説教が、聖礼典の中で示されたイエス・キリストにある神の恵みを強調しつつ、また、「信仰にしっかりとどまるように勧め」（使徒14：22）られつつ、なされてもよい。

聖餐式は、感謝の祈りと、ふさわしい詩篇の賛美、祝祷の宣告で終わる。

第四章 特別に定められた集会

1

新約の下に、キリスト教の安息日である主の日のほかに、聖く守られる日としてみ言葉に命じられている日はない。それにもかかわらず、通常とは違った神の摂理の定めが機会を与える度に、一日を、または数日を公的な断食、または感謝のために聖別することがふさわしいことがありうる。

<断食>

2

断食やへりくだりや祈りのための特別な日は、神の裁きがその地に明らかであるとき、または、教会や国家の集団的罪が、神の怒りを引き起こし、神の裁きを招いたときに特にふさわしい。主の晩餐の準備となる礼拝奉仕と共に、または、小会、中会、大会によってこの目的のために指定された日に、このような日が守られることがふさわしい。

3

キリスト教の断食において、神の定められた儀式として、信者は、神の意思、奉仕の力、より深い霊性を求めるために、一定の期間、食物、または、何らかの通常の楽しみを自発的に慎む。それは、黙想、自己吟味、神のみ前でのへりくだり、罪の告白、悔い改め、従順な人生への新たにされた献身が伴われるべきである。

4

断食の日は、公的礼拝の奉仕によって表されてもよい。このような礼拝奉仕では、罪の告白の祈りと赦しの嘆願とがささげられるとともに、ざんげの詩篇が歌われることがふさわしい。

5

もし政治的権威が聖書と一致する祈りと断食の時を呼びかけるならば、小会はその布告にふさわしい尊敬を払うことを励ましてもよい。このような一般的な場合以外でも、家族、または個人で、それぞれの理由で、一定の期間、祈りと断食に自分自身をささげる時があってもよい。

<感謝>

6

キリスト者はどんなときも感謝に満ちているべきであるが、集団として感謝を表す特別な期間がもうけられるべき時がある。それは、会衆の歩みにおける神の特別な祝福に応じて、または、国全体の感謝の日のための政治的権威の呼びかけ（聖書に一致するかぎり）で、または、神の具体的な祝福の供給のための感謝の中で、なされる。

7

このような時に、小会は、公的礼拝のふさわしい奉仕が、人々が神の数々の祝福を列挙し、神に賛美を歌い、集団でまた個人で神の慈しみを感謝し、教会と国家両方のために祈りの中で神を呼び求め、神への感謝について神の言葉によって勧めを受けるように、導かれるべきだと考えることができる。何か慈善のために献金をすることで、その感謝の思いを表す機会が、人々に与えられてもよい。

<契約>

8

神との契約は、個人、教会、国家が、神を彼らの神として受け入れることを宣言し、神に忠誠と従順を誓う、厳粛な礼拝行為である。公的に契約を結ぶことは、恵みの契約への一つのふさわしい応答である。陪餐員の契約[教会員の契約]は、キリストへの信仰を告白し、教会につながれた人によって受け入れられるべきである。通常は、そのような人は、会衆の前でこの契約に公に同意するべきである。ふさわしい状況においては、教会と国家は、神の言葉のその時々適用から起こる責務の声明書を作り出してもよい。このような契約は、神の言葉の、信者たちの生きる様々な状況と時々への真実な表現である限り、継続して有効性を持つ。（誓約と契約についてのさらに詳しい考察は、証言書22章、特に第8項、第9項を参照。）

このような契約の例は、1638年のスコットランド国民契約、1643年の厳粛な同盟と契約、1871年の北米改革長老教会の契約である。

第五章 結婚式と葬儀

<結婚式>

1

結婚は、人類の繁栄と幸福のために神によって定められた。神は、結婚は一人の男と一人の女との間のもので、彼らの喜びと満足のためであり、子供たちを育てるためであり、教会のさらに確かな存続のためである。結婚において、夫と妻は、彼らの両親を離れ、誠実に互いに結び合い、死による以外は引き離されることはない。

2

最初に神が結婚を造られたように、結婚は、教会特有のものでも聖礼典でもないが、すべての社会、国家に不可欠なものであり、それゆえに教会と国家の両方によって正しく認識されるべきである。したがって、国家は、結婚を正式に執り行うに際して教会の役割を認識すべきであり、教会は、聖書に違反しない、理にかなった健全な政府の規定を尊敬し、遵守すべきである。特に牧師は、教会の結婚記録をつけながら、健全な国の規定が満たされているか確かめるべきである。

3

神が、キリスト者が結婚するときは、主にあつて結婚しなければならないと命じられ、すべての夫と妻がどのようにともに生きるか教えられ、イエス・キリストと教会の間の愛の類比として結婚が用いられさせたように、結婚が、教会によって正式に執り行われ、信頼される証人たちによって証言されることが、正しく、また、ふさわしい。

4

通例は、結婚式は主の日に持たれるべきでない。もし状況がそれを避けられないようにするならば、結婚の儀式が教会の公的礼拝を妨げないように注意されるべきである。

5

下記の順序と表現が推奨されている。

- a) 新郎新婦が牧師の前に立ち、牧師は言う。
 - (a) 「私たちは、この男子と女子を結婚において結び合わせるために、神と会衆の前に集いました。神は、結婚を始めに制定されて、これにより、イエス・キリストとその教会の神秘的結合を示されました。イエスは、彼の初めの奇跡のしるしを結婚式で行われることにより結婚を尊重され、また彼は、『人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。』と宣言なさいました。それゆえ、結婚は、軽々しくなされるべきではなく、むしろ、敬虔かつ謹厳に、また、主への恐れのうちになされるべきである。」
 - (b) それから牧師は、達成されようとしている結婚への神の祝福を祈るべきである。
 - (c) 聖書が読まれ、ふさわしい説教がなされる。創世記2：18 - 25、ルツ記1：16 - 17、エペソ5：22 - 33、コロサイ3：12 - 15は多くのふさわしい聖句の中のいくつかである。

- (d) 牧師は次に、新郎新婦に互いの手を重ね合わせるように求め、新郎に、これらの言葉、またはこれらと似たような言葉を、牧師の後で繰り返すように求める。
「私、（男子の名）は、あなた、（女子の名）を合法的に結婚した私の妻として迎え入れ、良い時も悪い時も、豊かな時も貧しい時も、病気の時も健康な時も、愛し大切にし、死が私たちを引き離すまで、あなたの愛情に満ちた忠実な夫になることを、神とこの証人たちの前で約束します。」
そして新婦はこれらの言葉、またはこれらと似たような言葉で応答する。
「私、（女子の名）は、あなた、（男子の名）を合法的に結婚した私の夫として迎え入れ、良い時も悪い時も、豊かな時も貧しい時も、病気の時も健康な時も、愛し大切にし、死が私たちを引き離すまで、あなたの愛情に満ちた忠実な妻になることを、神とこの証人たちの前で約束します。」
- (e) もし指輪が用いられるならば、牧師は、「あなたがたの結婚の誓いの証としてあなたがたは何を与えますか。」と尋ねる。それぞれの指輪がその受領者に示された後に、牧師は言う。
「あなたがたの結婚の誓いのしるしとしてこの指輪を与え、また受け取りなさい。これが、あなたがたにとって、あなたがたの結婚の愛の価値、不変性、純粹さの象徴となり、神のみ前でお互いに交わした厳粛な誓いの証印となりますように。」
- (f) それから牧師は言う。
「福音の役者として私に委ねられた権威のゆえに、また、神の律法とこの国の法律に応じ、今、私はあなたがたが夫であり妻であると宣言します。人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」
- (g) それから儀式は、神の祝福を求める祈りで終わられる。

6

適用されうる場合は、結婚予告の公表のあとの結婚が、その地域での規定に従って実行されてよい。書式は下記のようなものである。

私はここに、～年～月～日に～（場所）で結婚の約束をした、～市の～（女子の名）と～市の～（男子の名）の結婚予告を公表する。もし誰か、この二人が聖い結婚のうちに結び付けられるべきでない理由か、十分根拠のある彼らの婚姻上の障害を知っているならば、この会衆の長老に申告しなければならない。これは、この結婚予告を公表する第一回目である。

<葬儀>

7

キリスト教の葬儀は、イエス・キリストを敬い、遺族を慰めるものであるべきである。葬儀は、主の日はやむをえない緊急の場合以外、避けられるべきであるが、最もふさわしい場所、時に持たれることができる。葬儀は、簡素で不必要な飾りのないものであるべきである。故人は、愛情を込めて覚えられるべきであるが、葬儀は究極的に、人ではなく神をたたえるものである。

8

信者と未信者の終わりには大きな違いがあるゆえに、その葬儀も修正される必要がありうる。下に推奨されている葬儀順序は、信者の場合を考えて構成されている。しかしながら、牧師は故人が救われずに亡くなったと宣言するべきではない（神のみが審判者である）、また、その人生がそのような望みの根拠を与えていない者の救いをほのめかしてはならない。かえって、牧師はイエス・キリストを生と死における唯一の私たちの望みとして指し示すべきである。

9

秘密結社とどのような妥協もすべきではない。そのような組織が彼らの儀式を行うことを望んでいるところで司式するように招かれたなら、その牧師は、彼の司式する葬儀を明白に区別させるべきである。（証言書 25 : 19 を参照。）

10

同じように、牧師またはキリスト者はだれも、どのような偶像や先祖にも礼拝や畏敬の念をささげてはならない。牧師は、葬儀が明確に偶像礼拝を取り除いたものであることを確かめるべきである。

1 1

キリスト者は嘆き悲しむ者とともに嘆き悲しむべきであるが、しかし希望がない者のように嘆くのではない。それゆえ、キリスト者の主イエスへの忠誠が、先祖礼拝や死者のための祈りや死者への祈りのような何らかの非聖書的儀式によって妥協されることがない限りにおいて、葬儀前、または葬儀後に家族や愛する者たちと集まることはキリスト者にとって正しく、またふさわしいことである。

1 2

好みの聖書箇所や、葬儀を分担する同じ信仰を持った他の牧師たちを招くことについて家族と話し合うことは適切である。

1 3

聖句は注意深く選ばれるべきであり、祈りはよく考慮されるべきであり、説教は、生きることの助言と慰めの基礎としてキリストと彼の救いを提示するべきである。

1 4

下記のは、葬儀のために推奨されている順序である。

a) 導入

ヨハネ 11 : 25 - 26、詩篇 103 : 13 - 14、116 : 15、124 : 8、ローマ 4 : 7 - 9、ヨブ 1 : 21、19 : 25 - 27、II コリント 1 : 3 - 4 などのふさわしい聖句。

b) 祈祷

c) 詩篇賛美

d) 聖書朗読

次のうちから二つか三つ選ばれても良い。

慰めを与える聖句。(たとえば、詩篇 23、39 : 4 -、90、103、130。)

救いを説く聖句。(たとえば、ヨハネ 3 : 16 -、10 : 9 - 11、14 : 1 - 11、ローマ 5 : 1 - 11、8 : 1 - 11。) 復活について話している聖句。(たとえば、詩篇 73 : 23 - 26、I コリント 15 : 20 - 28、35 - 58、黙示録 21 : 1 - 4、22 - 27、22 : 1 - 7。)

e) 説教

時を得た、適切な長さの、慰めを与える、過度な死者の賞賛を避け、キリストを敬うものであるべきである。

f) 詩篇賛美

g) 祈祷

1 5 墓地にて、牧師は次のような言葉を用いることができる。

「私たちは、よみがえりであり命である方への信仰による、栄光に満ちたよみがえりの希望のうちに、このからだをこの墓にゆだねます。」

1 6

I コリント 15 : 53 - 58 のようなふさわしい聖句が読まれ、または、キリストの祝福 (ウェストミンスター小教理問答書第 37 問、第 38 問) が引用される。短い祈りで葬儀を終える。